

KORG DIGITAL PIANO

CONCERT

C-6500



このたびは、コルグ デジタル・ピアノ C-6500をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
本製品を末永くご愛用いただくためにも、この取扱説明書をよくお読みになって、正しい方法でご使用ください。

取扱説明書

目次

おもな特長	4	弾いてみましょう	11
各部の名称とその機能	4	1. 音色を選ぶ	11
スイッチの機能	6	2. 音に効果を加える	12
1. [音色セレクター] スイッチ	6	3. ペダルを使う	13
2. レコーダー・セクション	6	4. メトロノームに合わせて演奏する	14
3. 鍵盤	6	5. 鍵盤のタッチ感を変える	15
演奏するための準備	7	6. キーを変更する(移調)	15
1. 演奏を始める前に	7	7. 音の高さを微調整する	16
2. ヘッドホンを使うときは	7	8. 音律を選ぶ	16
3. 譜面立てを使うときは	8	演奏を録音/再生してみましょう	17
デモ演奏を聴いてみましょう	9	1. 演奏を録音する	17
1. すべてのデモ演奏を聴くときは	9	2. 録音した曲を聴く	18
2. 選んだデモ演奏を聴くときは	9	3. 演奏データを消去します	18
3. デモ演奏を一時停止するときは	10	他の機器との接続	19
4. デモ曲に合わせて練習する	10	1. シンセサイザーやオーディオ機器との接続 ...	19
5. デモ演奏のテンポを変えるときは	10	2. MIDI 機器との接続	19

安全上の注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

マークについて

製品には下記のマークが表示されています。

WARNING:
TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT
EXPOSE THIS PRODUCT TO RAIN OR MOISTURE.



マークには次のような意味があります。



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは注意喚起シンボルであり、取扱説明書などに一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

	△ 記号は、注意（危険、警告を含む）を示しています。 記号の中には、具体的注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⊘ 記号は、禁止（してはいけないこと）を示しています。 記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	● 記号は、強制（必ず行うこと）を示しています。 記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

デジタル・ピアノは、ご家庭の中で身近において、お子さまから専門家の方まで幅広くご愛用いただけます。

デジタル・ピアノは大きくて非常に重いものです。安全に使用していただくためにも、室内での設置場所や日常の取り扱いについては、十分に注意してください。また、設置や移動の際は必ず2人で行ってください。

小さなお子様でご使用になる場合は、ご家族の方が最初に教えてあげてください。

警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が予想されます



- ・電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。
- ・電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。
感電やショート恐れがあります。
- ・本製品はコンセントの近くに設置し、電源プラグへ容易に手が届くようにする。



- ・次のような場合には、直ちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜く。
 - 電源コードやプラグが破損したとき
 - 異物が内部に入ったとき
 - 製品に異常や故障が生じたとき
 修理が必要なときは、お買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、または営業技術課へ修理を依頼してください。



- ・本製品を分解したり改造したりしない。



- ・修理/部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは絶対にしない。
- ・電源コードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、電源コードの上に重いものを乗せない。
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。

- ・大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。
万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。

- ・本製品に異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）を入れない。

- ・温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）で使用や保管はしない。

- ・振動の多い場所で使用や保管はしない。

- ・ホコリの多い場所で使用や保管はしない。



- ・風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。



- ・雨天時の野外などのような湿気の多い場所で、使用や保管はしない。

- ・本製品の上に液体の入ったもの（水や薬品等）を置かない。

- ・本製品に液体をこぼさない。



- ・濡れた手で本製品を使用しない。

注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物理的損害が発生する可能性があります



- ・ 正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。
- ・ ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。
ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
- ・ 外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。
- ・ 電源コードをコンセントから抜き差しするときは、必ず電源プラグを持つ。
- ・ 本製品の移動時は、本体とスタンドを別にし、必ず2人以上で持ち上げる。



- ・ 長時間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く。



- ・ 他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしていない。
本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- ・ スイッチやつまみなどに必要以上の力を加えない。
故障の原因になります。
- ・ 外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーは使用しない。
- ・ 不安定な場所に置かない。
本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。
- ・ 本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。
本製品が損傷したり、お客様がけがをする原因となります。
- ・ 地震時は本製品に近づかない。
- ・ 本製品に前後方向から無理な力を加えない。
本製品が転倒する危険性があります。



- ・ キー・カバーまたは譜面立ての開閉時は、指や手を挟まないようにする。

付属のスタンドについて



- ・ 取扱説明書に記載されている「スタンドの組み立て方」に従って確実に設置する。
本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。

付属のイスについて



- ・ ピアノの演奏用にのみ使用する。
イスで遊んだり、イスを踏み台等に使用すると、転倒してお客様がけがをしたり、イスが壊れる恐れがあります。



- ・ 二人以上で腰掛けない。
付属のイスは一人用です。



- ・ 高低自在イスの高さを調節するときは、イスから降りてから確実に行う。
腰掛けたままで高さを調節を行うと、手を挟み傷害を負う恐れがあります。

バックアップ・バッテリーについて

本製品は、電源オフ後に内蔵メモリーの内容が消滅するのを防ぐために、バックアップ用バッテリーを装備しています。

電源のオン時に[タッチ]スイッチのランプが点滅したら、バッテリーを交換する必要がありますので、お買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、または営業技術課までお問い合わせください。[タッチ]スイッチを押すと、ランプの点滅は解除されます。

データについて

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリー内容が消えてしまうことがありますので、大切なデータはフロッピー・ディスクまたは外部のデータファイラー（記憶装置）等にセーブしておいてください。またデータの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

取扱説明書の表記について

スイッチ類の表記

本体のスイッチ類は[]で括弧しています。

(p. ■) : 参照ページを表します。



: 使用時の注意を表します。



: 使用時のヒント等の内容を表します。

演奏を楽しむためのエチケット

音楽を楽しむときには、周囲への音の配慮も大切です。演奏する時間によって、音量調節をしたり、ヘッドホンを使用しましょう。

また、ヘッドホン使用時、または小さな音量での演奏時に、鍵盤の機構上若干のメカニズム音が聞こえます。あらかじめご了承ください。

- * MIDIは社団法人音楽電子事業協会 (AMEI) の登録商標です。
- * 掲載されている会社名、製品名、規格名などは、それぞれ各社の商標または登録商標です。

おもな特長

表現力あるピアノ音

鍵盤タッチの強弱に応じて音の波形を切り替えることで、グランド・ピアノの音の鳴り方を忠実に再現する**アクティブ・ステレオ・サンプリング技術**により、コルグならではの表現力に富んだ豊かなピアノ音が実現できます。

多彩な音色 (☞p.11)

コンサートグランド・ピアノの音色をはじめ、コルグ独自のHI (Hyper Integrated) シンセシス・システムによる豊かな表現力を生む、高品位な9種類の音色を内蔵しています。レイヤー機能やスプリット機能で、同時に2つの音色を組み合わせて演奏できます。

エフェクト機能 (☞p.13)

コンサートホールで演奏しているような響きや、音にうねりを与え、広がりのある豊かな響きにするデジタルエフェクトを内蔵しています。

ペダル効果 (☞p.13)

アコースティック・ピアノと同様に3つのペダルがあり、それぞれ、ダンパー、ソステヌート、ソフトの効果が得られます。ダンパー・ペダルは、アコースティック・ピアノの弦の響きをシミュレートした共鳴効果を再現します。ダンパー・ペダルとソフト・ペダルは、ペダルを踏む深さで効果のかかり方が調整可能 (ハーフ・ペダル機能) です。

メトロノーム機能 (☞p.14)

拍子、テンポ、音量を変えることができ、さらに強拍時にベルの音を使用できるメトロノームを内蔵しています。

レコーダー機能 (☞p.17)

テープレコーダーを操作する感覚で、自分の演奏をそのまま録音、再生できるレコーダーを内蔵しています。

タッチ・コントロール機能 (☞p.15)

鍵盤を弾く強さによる音の強弱の度合いを、3種類の中から選択できます。

音律 (☞p.16)

平均律の他に、2種類の古典音律 (キルンベルガー、ヴェルクマイスター) を選択することによって、古典音楽等の再現も可能になります。

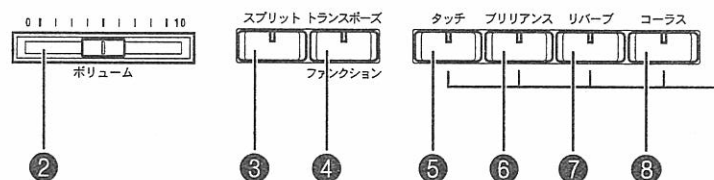
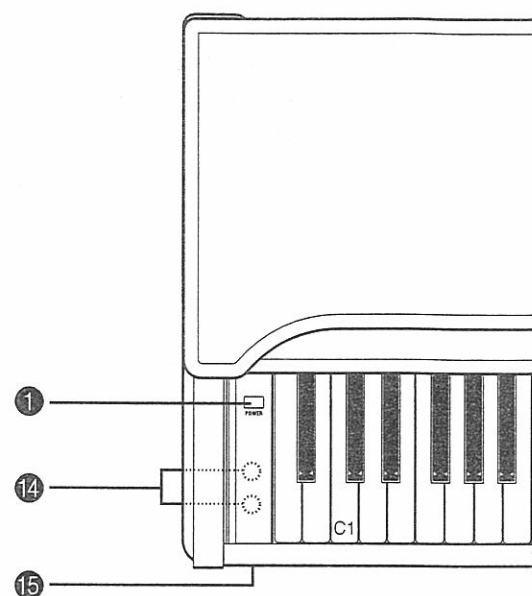
音の高さの調節 (☞p.15、16)

トランスポーズ機能により移調を、ピッチコントロール機能により音の高さの微調整を行うことができます。

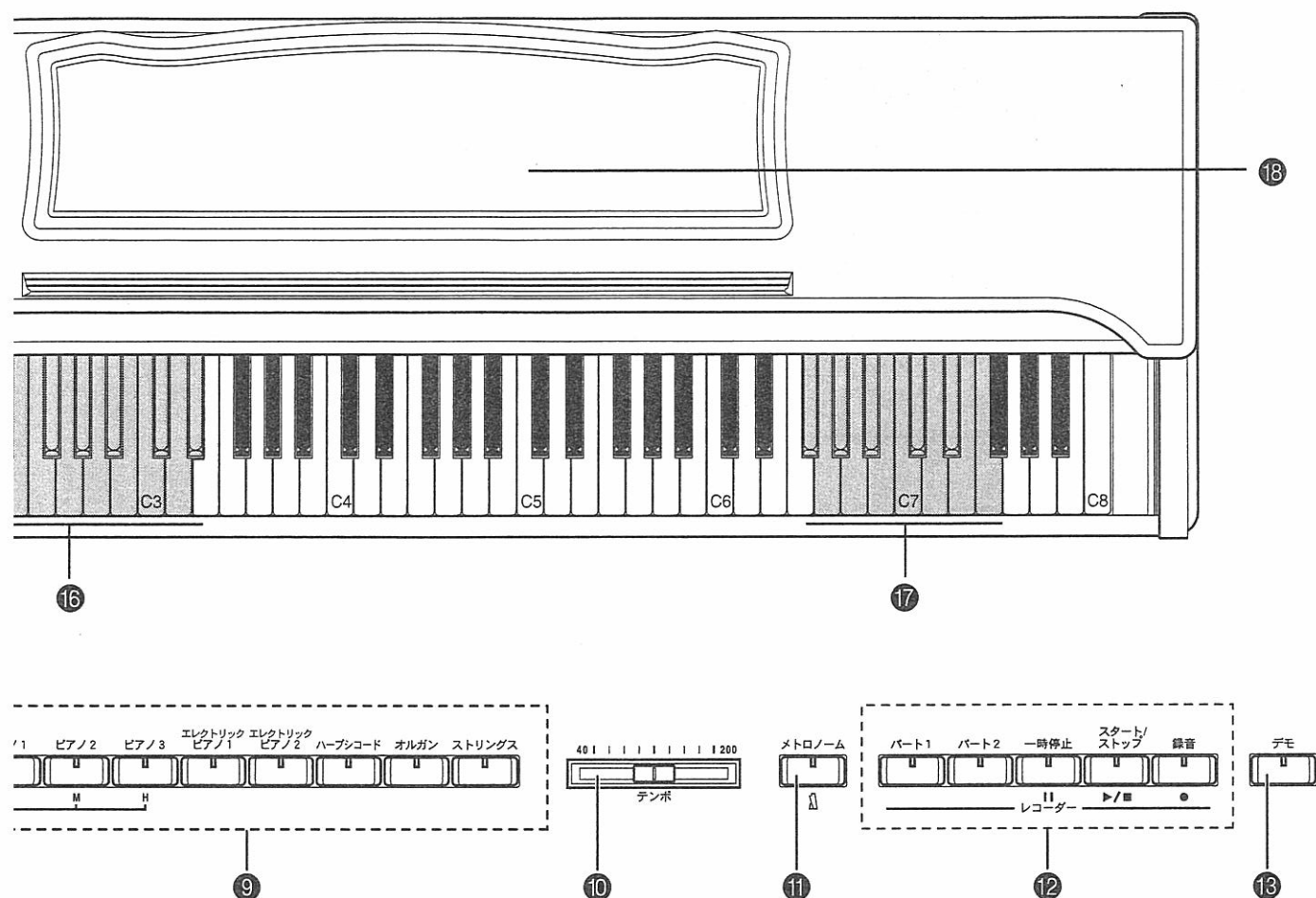
MIDIの装備 (☞p.19)

電子楽器やコンピュータの間で、演奏情報のやりとりを行う統一規格MIDIを装備しています。MIDIを使うと、接続した機器間で相互にコントロールすることができ、本機を16パートマルチティンバー音源としても使用することができます。

各部の名称とその機能



- ① **[POWER] (パワー) スイッチ**
電源をオンまたはオフにします。押すたびにオンとオフが切り替わります (☞p.7)。
- ② **[ボリューム] スライダー**
スピーカー、ヘッドホン、アウトプットから出る音量を、コントロールします (☞p.7)。
- ③ **[スプリット] スイッチ**
鍵盤を低音側と高音側に分けて、別々の音色で演奏するためのスイッチです (☞p.12)。
- ④ **[トランスポーズ/ファンクション] スイッチ**
移調するとき (☞p.15) や、MIDIに関する設定 (☞p.19) に使います。この他さまざまな設定にも使用します。
- ⑤ **[タッチ] スイッチ**
鍵盤のタッチを設定するスイッチです (☞p.15)。
- ⑥ **[ブリリアンス] スイッチ**
音色の明るさを設定するスイッチです (☞p.12)。
- ⑦ **[リバーブ] スイッチ**
音に残響を加えるスイッチです (☞p.13)。



- ⑧ **【コーラス】スイッチ**
音に広がりを加えるスイッチです (p.13)。
- ⑨ **【音色セレクトター】スイッチ**
音色を選びます (p.11)。
ピアノ1、2、3、エレクトリックピアノ1、2、ハープシコード、オルガン、ストリングスの8音色から選択します。
同時に2つの音色で演奏(レイヤー機能)することもできます。
- ⑩ **【テンポ】スライダー**
メトロノーム、レコーダーのテンポを調節します (p.14)。
- ⑪ **【メトロノーム】スイッチ**
メトロノームをスタート/ストップします (p.14)。
- ⑫ **レコーダー・セクション**
演奏を録音/再生します (p.17)。
- ⑬ **【デモ】スイッチ**
デモ曲を演奏します (p.9)。
- ⑭ **ヘッドホン端子(本体底面にあります)**
ステレオヘッドホンを接続します (p.7)。
- ⑮ **パワー・ランプ**
- ⑯ **MIDIチャンネル用鍵盤**
MIDIチャンネルを設定します (p.19)。
- ⑰ **トランスポーズ用鍵盤**
トランスポーズ(移調)をします (p.15)。
- ⑱ **譜面立て (p.8)**

スイッチの機能

2つのスイッチを同時に押して、設定するスイッチの一覧です。

1. 【音色セクター】スイッチ

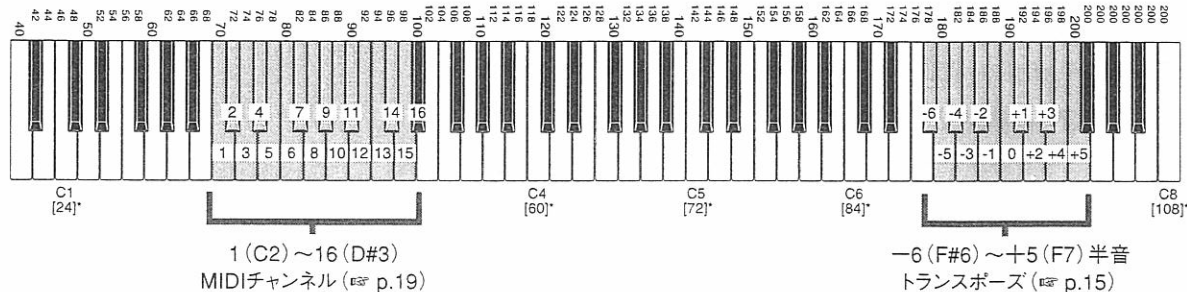
		ピアノ1		ピアノ2		ピアノ3		エレクトリック ピアノ1		エレクトリック ピアノ2		ハーブシコード		オルガン		ストリングス	
		L		M		H											
トランスポーズ ファンクション		+		ローカル ON/OFF		MIDIの設定 (p.20~22) プログラム チェンジON/OFF		コントロール チェンジON/OFF		データダンプ		音量の設定* (p.11,12) レイヤー1/低音側 の音量を大きく		オクターブの設定* (p.11,12) レイヤー1/低音側 のオクターブを下げる		レイヤー1/低音側 のオクターブを上げる	
メトロノーム		+		弱拍のみ		2拍子		3拍子		4拍子		6拍子		メトロノームの強拍の音 (p.14) 通常の音		ペルの音	
タッチ		+		鍵盤のタッチ感 (p.15) 軽い		標準		重い		音律の設定 (p.16) ヴェルクマイスター		キルンベルガー		オクターブの設定* (p.11,12) レイヤー2/高音側 のオクターブを下げる		レイヤー2/高音側 のオクターブを上げる	
ブリリアンス		+		音の明るさの設定 (p.12) やわらかい		標準		明るい						デモ演奏時の音量 (p.10) ミュートパートの 音量を下げる		ミュートパートの 音量を上げる	
リバーブ		+		リバーブ効果の設定 (p.13) 浅い		やや深い		深い									
コーラス		+		コーラス効果の設定 (p.13) 浅い		やや深い		深い									

* レイヤー機能/スプリット機能時の設定

2. レコーダー・セクション

		パート1		パート2		一時停止	スタート/ ストップ	録音
トランスポーズ ファンクション	+	演奏データの消去 (p.18) パート1を消去		パート2を消去				メモリー残量 (p.18)
メトロノーム	+	メトロノームの音量 (p.14) 小さく		大きく				
タッチ	+	ピッチの設定 (p.16) 下げる		上げる				
ブリリアンス	+	パートの音量バランス (p.18) パート1を大きく		パート2を大きく				

3. 鍵盤



* [] 内はMIDIノートNo.

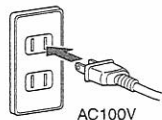
演奏するための準備

1. 演奏を始める前に

1. 電源コードを差し込みます。

電源コードの片側を、本体底面のソケットに差し込みます (p.26)。

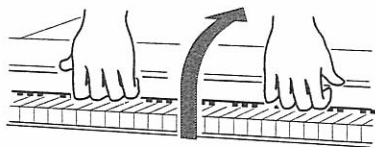
電源コードのプラグをコンセントに差し込みます。



必ずAC100Vの電源コンセントに、差し込んでください。

2. キーカバーを開けます。

キーカバーの手前のへりを両手で持ち上げて、静かに開けてください。

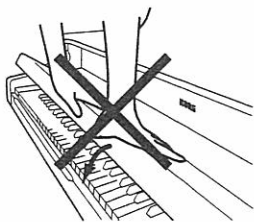


キーカバーを閉めるときは、手前のへりを持ち、静かに閉めてください。

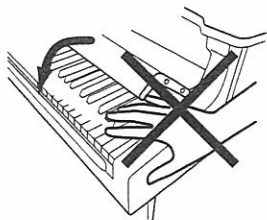
キーカバーは、途中から自然にゆっくりと閉まる構造になっていますので、無理に閉めないでください。



無理な力を加えたり乱暴に開閉すると、故障の原因になります。



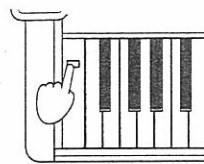
開閉中は、指や手を挟まないように十分注意してください。



キーカバーを開けるときは、キーカバーの上に紙やコインが無いことを確認してください。中に入り込む恐れがあります。

3. 電源をオンにします。

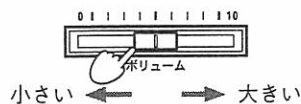
[POWER] スイッチを押して、電源をオンにします。正面左側にあるパワー・ランプが点灯します。



電源をオフにするときは、もう一度[POWER] スイッチを押します。パワー・ランプが消灯します。

4. 音量を調節します。

[ボリューム] スライダーで、本体のスピーカーとヘッドホン端子、OUTPUT端子から出力される音量をコントロールします。



[ボリューム] スライダーを中程まで上げます。スライダーを右に動かすと音が大きくなり、左に動かすと音が小さくなります。「0」の位置では音が出ません。

実際に弾きながら、適度な音量に調節してください。

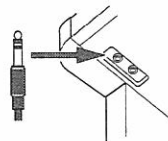
2. ヘッドホンを使うときは

本体左側底面にあるヘッドホン端子に、ステレオヘッドホンのプラグ (標準プラグ) を差し込みます。

ヘッドホンを差し込むと、本体のスピーカーからは音が出なくなります。

夜間などの周囲へ伝わる音が気になるときは、ヘッドホンをお使いください。

ヘッドホン端子は2つありますので、2人で演奏を楽しむことができます。



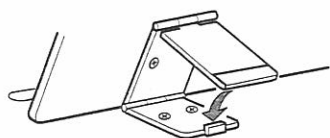
ヘッドホンを使用する際は、耳の保護のために大きな音量で長い時間聴かないでください。



ミニ標準の変換プラグのついたヘッドホンをご使用の場合、プラグの抜き差しは変換プラグを持って行ってください。

3. 譜面立てを使うときは

譜面立てを起こし、裏面にある2つのストッパーを使って、倒れないようにします。



デモ演奏を聴いてみましょう

本機には、4つ（A～D）のバンクに32曲のデモ演奏が入っています。

バンクA（1～8）は音色紹介のデモ演奏、バンクB～D（9～32）はピアノ曲のデモ演奏です。

デモ演奏を聴いて、本機の豊かな音色とその表現力を確認してください。

バンク No.	音色セレクト	曲名/作曲者
A	1 ピアノ1	幻想即興曲 Op.66/F.ショパン
	2 ピアノ2	PANORAMA/KORGオリジナル
	3 ピアノ3	Harmony of Love/KORGオリジナル
	4 エレクトリックピアノ1	Confusion/KORGオリジナル
	5 エレクトリックピアノ2	The Garden/KORGオリジナル
	6 ハープシコード	インベンション第1番/J.S.バッハ
	7 オルガン	フーガ短調/J.S.バッハ
	8 スtrings	G線上のアリア/J.S.バッハ
B	9 ピアノ1	プレリュード(平均律第1番より) / J.S.バッハ
	10 ピアノ2	ソナタK.545 第1楽章 / W.A.モーツァルト
	11 ピアノ3	トルコ行進曲(ソナタK.331より) / W.A.モーツァルト
	12 エレクトリックピアノ1	エリーゼのために / L.v.ベートーヴェン
	13 エレクトリックピアノ2	アラベスク Op.100-2(25練習曲より) / F.ブルグミュラー
	14 ハープシコード	ステイアの女 Op.100-14(25練習曲より) / F.ブルグミュラー
	15 オルガン	貴婦人の乗馬 Op.100-25(25練習曲より) / F.ブルグミュラー
	16 スtrings	春の歌 Op.62-6(無言歌集第6巻より) / F.メンデルスゾーン
C	17 ピアノ1	ワルツ 第6番 変二長調「小犬」Op.64-1 / F.ショパン
	18 ピアノ2	ワルツ 第7番 ホ短調 Op.64-2 / F.ショパン
	19 ピアノ	ノクターン 第2番 Op.9-2 / F.ショパン
	20 エレクトリックピアノ1	マズルカ第5番 Op.7-1 / F.ショパン
	21 エレクトリックピアノ2	トロイメライ Op.15-7 / R.シューマン
	22 ハープシコード	荒野のぼら / G.ランゲ
	23 オルガン	紡ぎ歌 / A.エルメンライヒ
	24 スtrings	人形の夢と目覚め / T.オースティン
D	25 ピアノ1	コレオウオークのケークウオーク / C.ドビュッシー
	26 ピアノ2	亜麻色の髪の乙女 / C.ドビュッシー
	27 ピアノ3	アラベスク 第1番 / C.ドビュッシー
	28 エレクトリックピアノ1	月の光 / C.ドビュッシー
	29 エレクトリックピアノ2	黒鍵のエチュード / F.ショパン
	30 ハープシコード	別れの曲 Op.10-3 / F.ショパン
	31 オルガン	ジムノペディ第1番 / E.サティ
	32 スtrings	愛の挨拶 / E.エルガー

1. すべてのデモ演奏を聴くときは

1. [デモ] スイッチを押します。

[デモ] スイッチのランプが点灯し、デモモードになります。

[音色セレクト] スイッチのランプが「1つずつ順番に点灯」を繰り返します。



2. [スタート/ストップ] スイッチを押します。

1の「幻想即興曲 Op.66」が始まり、32の「愛の挨拶」まで順番に演奏します。

32が終わると1へ戻り、演奏を繰り返していきます。



曲の演奏中に[音色セレクト] スイッチを押すと、そのバンクの中で、繰り返し演奏されるようになります。

例えば、10の「ソナタK.545 第1楽章」の演奏中に[音色セレクト] スイッチの「ストリングス」を押すと、16の「春の歌 Op.62-6(無言歌集第6巻より)」が演奏されます。以後9へ戻り、演奏を繰り返していきます。



デモ演奏の音色は変更できません。また、メトロノーム機能は動作しません。

2. 選んだデモ演奏を聴くときは

バンクAの曲を選ぶときは

1. [デモ] スイッチを押します。

[音色セレクト] スイッチのランプが「1つずつ順番に点灯」を繰り返します。

2. [音色セレクト] スイッチを押して、デモ演奏を選びます。

[音色セレクト] スイッチは、左側からそれぞれ1～8の曲に対応しています。

選んだ曲が始まり、8まで順番に演奏します。それが終わると1に戻り、演奏を繰り返していきます。



3. デモ演奏を終えるときは、[デモ] スイッチを押します。

デモモードから抜けます。

バンクBの曲を選ぶときは

1. [デモ]スイッチを2回押します。
[音色セクター]スイッチのランプが“すべて同時に点滅”を繰り返します。
2. [音色セクター]スイッチを押して、デモ演奏を選びます。
[音色セクター]スイッチは、左側からそれぞれ9～16の曲に対応しています。
選んだ曲が始まり、16まで順番に演奏します。それが終わると9に戻り、演奏を繰り返し行います。
3. デモ演奏を終えるときは、[デモ]スイッチを押します。
デモモードから抜けます。

バンクCの曲を選ぶときは

1. [デモ]スイッチを3回押します。
[音色セクター]スイッチのランプが“1つおきに交互に点滅”を繰り返します。
2. [音色セクター]スイッチを押して、デモ演奏を選びます。
[音色セクター]スイッチは、左側からそれぞれ17～24の曲に対応しています。
選んだ曲が始まり、24まで順番に演奏します。それが終わると17に戻り、演奏を繰り返し行います。
3. デモ演奏を終えるときは、[デモ]スイッチを押します。
デモモードから抜けます。

バンクDの曲を選ぶときは

1. [デモ]スイッチを4回押します。
[音色セクター]スイッチのランプが“2つずつ順番に点滅”を繰り返します。
2. [音色セクター]スイッチを押して、デモ演奏を選びます。
[音色セクター]スイッチは、左側からそれぞれ25～32の曲に対応しています。
選んだ曲が始まり、32まで順番に演奏します。それが終わると25に戻り、演奏を繰り返し行います。
3. デモ演奏を終えるときは、[デモ]スイッチを押します。
デモモードから抜けます。

3. デモ演奏を一時停止するときは

1. 演奏中に[一時停止]スイッチを押します。
演奏が一時停止します。
2. 再度[一時停止]または[スタート/ストップ]スイッチを押すと、続きから演奏を再開します。

4. デモ曲に合わせて練習する

右手と左手を別々に練習するときは

バンクB～Dのデモ曲は、右手または左手のパートのどちらかをデモ演奏させ、もう一方のパートの音を小さくして自分で演奏することができます。

1. 9～32の中から曲を選びます。
演奏が始まります。
2. 左手のパートの音量を小さくするときは、[パート1]スイッチを押し、右手のパートの音量を小さくするときは、[パート2]スイッチを押します。
押したスイッチのランプが点滅します。
曲に合わせて演奏してください。

MEMO 小さくした音量を調整することができます。

デモ演奏中に、[プリリアンス]スイッチを押しながら[音色セクター]スイッチの“オルガン”を押すと、音量がさらに小さくなります。また、[プリリアンス]スイッチを押しながら[音色セクター]スイッチの“ストリングス”を押すと、音量が大きくなります。

3. 左右のパートを同じ音量に戻すときは、ランプの点滅しているパートのスイッチを押します。
ランプが点灯に変わります。

5. デモ演奏のテンポを変えるときは

バンクB～Dのデモ曲は、曲のテンポを変えることができます。

- 演奏中または一時停止のときに、[テンポ]スライダーで調節します(※p.14)。



デモ曲は、それぞれでテンポが設定されていますので、1つの曲でテンポを調整しても、曲が変わると、その曲で設定されているテンポになります。



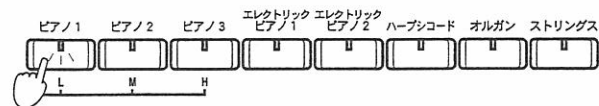
デモ演奏のテンポは[テンポ]スライダーの目盛りの数字とは一致しません。

弾いてみましょう

1. 音色を選ぶ

- [音色セクター] スイッチを1つ押して、音色を選びます。

選んだ[音色セクター]スイッチのランプが点灯します。



ピアノ1	臨場感あふれる最高峰のステレオ・グランドピアノの音
ピアノ2	軽やかで繊細なステレオ・グランドピアノの音
ピアノ3	ジャンルを問わずオールマイティに弾けるグランドピアノの音
エレクトリックピアノ1	軽やかで透明感のあるエレクトリックピアノの音
エレクトリックピアノ2	アタック感があって切れの良いエレクトリックピアノの音
ハープシコード	クラシックな趣きのあるリアルなハープシコードの音
オルガン	荘厳なパイプオルガンの音
ストリングス	バイオリンなどの弦楽器によるアンサンブルの音


2つの音色を組み合わせて演奏するときは (レイヤー機能)

1つの鍵盤を弾いたときに、2つの音色(たとえばピアノ1とストリングス)を同時に鳴らして、演奏することができます。これをレイヤー機能といいます。

1. 2つの[音色セクター]スイッチを同時に押します。
2つの[音色セクター]スイッチのランプが点灯します。
[音色セクター]スイッチで、点灯している2つのランプのうち、左側の音色をレイヤー1、右側の音色をレイヤー2といいます。



レイヤー時の最大同時発音数は32音です。

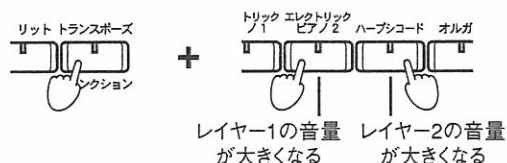
 ピアノ1または2の音色を選んだ場合、同時発音数は21音になります。また、ピアノ1と2の両方を選んだ場合、同時発音数は16になります。

2. レイヤー機能を解除するときは、[音色セクター]スイッチを1つ押します。

音色の音量を変えるときは

MeMO この設定は、音色の組み合わせごとに記憶されます。

- レイヤー1の音量を大きくする
[トランスポート/ファンクション]スイッチを押しながら、[音色セクター]スイッチの“エレクトリックピアノ2”を押します。
 - レイヤー2の音量を大きくする
[トランスポート/ファンクション]スイッチを押しながら、[音色セクター]スイッチの“ハープシコード”を押します。
- スイッチを何度か押して、音量バランスを決めます。音量バランスが決まったら、[ボリューム]スライダーで全体の音量を調整してください。

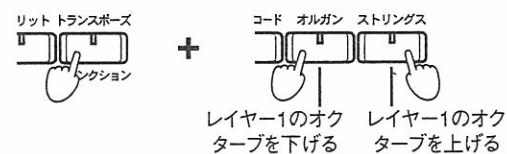


2つの音色のオクターブを変えるときは

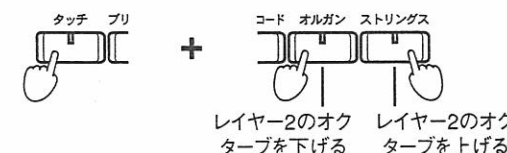
MeMO この設定は、音色の組み合わせごとに記憶されます。

レイヤー1、2は、それぞれ±1オクターブを上下させることができます。

- レイヤー1のオクターブを下げる
[トランスポート/ファンクション]スイッチを押しながら、[音色セクター]スイッチの“オルガン”を押します。
- レイヤー1のオクターブを上げる
[トランスポート/ファンクション]スイッチを押しながら、[音色セクター]スイッチの“ストリングス”を押します。



- レイヤー2のオクターブを下げる
[タッチ]スイッチを押しながら、[音色セクター]スイッチの“オルガン”を押します。
- レイヤー2のオクターブを上げる
[タッチ]スイッチを押しながら、[音色セクター]スイッチの“ストリングス”を押します。



鍵盤の左右に違う音色を設定して演奏するとき (スプリット機能)

鍵盤の低音側と高音側に、それぞれ違う音色を設定して演奏することができます。これをスプリット機能といいます。

1. [スプリット]スイッチを押します。

スプリット・ポイントはF#3になり、[スプリット]スイッチのランプが点灯します。

低音側はベース音色になります。

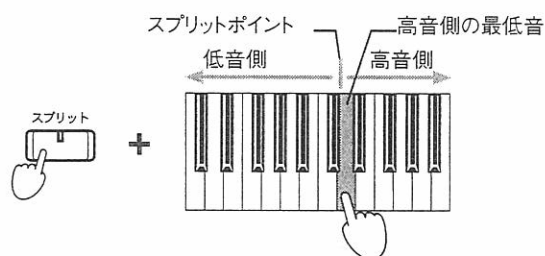
高音側は[スプリット]スイッチを押す前の音色になります。

F#3は高音側になります。

MeMO レイヤー機能時に[スプリット]スイッチを押したときは、レイヤー1に選んでいた音色が高音側になります。

2. スプリット・ポイントを変更するときは、[スプリット]スイッチを押しながら、境目にする鍵盤を押します。

押した鍵盤がスプリット・ポイントになり、高音側になります。



3. 音色を選びます。

高音側の音色は[音色セクター]スイッチを押して選択します。

[音色セクター]スイッチのランプが点灯します。

○ 低音側をベース音色以外にする

高音側に選んだ音色の[音色セクター]スイッチを押しながら、低音側に選ぶ音色の[音色セクター]スイッチを押します。

[音色セクター]スイッチのランプは、高音側と低音側の両方が点灯します。

○ 低音側をベース音色に戻す

低音側に選んだ[音色セクター]スイッチを押します。低音側はベース音色になります。このとき高音側は、押したスイッチの音色が選ばれますので、必要に応じて、高音側の音色を選択してください。

4. スプリット機能を解除するときは、[スプリット]スイッチを押します。

[スプリット]スイッチのランプが消灯します。

2つの音色の音量バランスを変えるときは



電源をオフにすると、もとの設定に戻ります。

○ 低音側の音量を大きくする

[トランスポート/ファンクション]スイッチを押しながら、[音色セクター]スイッチの“エレクトリックピアノ2”を押します。

○ 高音側の音色の音量を大きくする

[トランスポート/ファンクション]スイッチを押しながら、[音色セクター]スイッチの“ハーブシコード”を押します。

スイッチを何度か押して、音量バランスを決めます。バランスが決まったら、[ボリューム]スライダーで全体の音量を調整してください。



2つの音色のオクターブを変えるときは

低、高音側は、±1オクターブを上下させることができます。スプリットにした直後は、それぞれの音色で設定されているオクターブが選ばれます。



電源をオフにすると、もとの設定に戻ります。

○ 低音側のオクターブを下げる

[トランスポート/ファンクション]スイッチを押しながら、[音色セクター]スイッチの“オルガン”を押します。

低音側のオクターブを上げる

[トランスポート/ファンクション]スイッチを押しながら、[音色セクター]スイッチの“ストリングス”を押します。

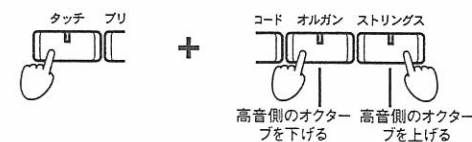


○ 高音側のオクターブを下げる

[タッチ]スイッチを押しながら、[音色セクター]スイッチの“オルガン”を押します。

高音側のオクターブを上げる

[タッチ]スイッチを押しながら、[音色セクター]スイッチの“ストリングス”を押します。

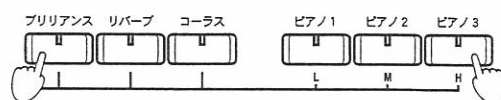


2. 音に効果を加える

音の明るさを調節するときは

MeMO この設定は、音色ごと、音色の組み合わせごとに記憶されます。

○ [ブリリアンス]スイッチを押しながら、[音色セクター]スイッチの“ピアノ1/L”、“ピアノ2/M”、“ピアノ3/H”の中から1つを押して、音の明るさを選びます。



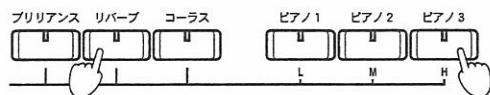
ピアノ1/L	やわらかい音色になります。
ピアノ2/M	通常の効果に戻ります。
ピアノ3/H	明るめの音色になります。

音に残響を加えるときは

MeMO この設定は、音色ごと、音色の組み合わせごとに記憶されます。

音に残響と深みを加え、コンサートホールで演奏しているような臨場感のあるサウンドにします。これをリバーブ効果といいます。

1. [リバーブ]スイッチを押しながら、[音色セクター]スイッチの“ピアノ1/L”、“ピアノ2/M”、“ピアノ3/H”の中から1つを押して、リバーブの深さを選びます。



ピアノ1/L	リバーブ効果が浅くかかります
ピアノ2/M	リバーブ効果がやや深くかかります
ピアノ3/H	リバーブ効果が深くかかります

2. リバーブ効果をオフにするときは、[リバーブ]スイッチを押します。

[リバーブ]スイッチのランプが消灯します。

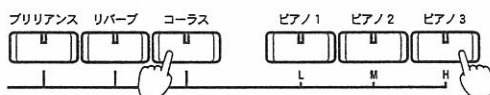
! ピアノ1、2、3の音色では、アコースティックピアノの弦の響きをシミュレートするためリバーブをオフにしても、わずかにリバーブ効果が残ります。

音に広がりを加えるときは

MeMO この設定は、音色ごと、音色の組み合わせごとに記憶されます。

音にうねりを加え、広がりのある豊かなサウンドにします。これをコーラス効果といいます。

1. [コーラス]スイッチを押しながら、[音色セクター]スイッチの“ピアノ1/L”、“ピアノ2/M”、“ピアノ3/H”の中から1つを押して、コーラスの深さを選びます。



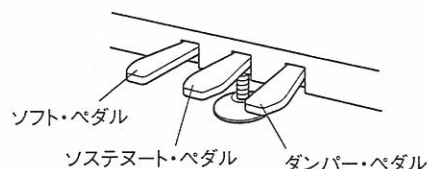
ピアノ1/L	コーラス効果が浅くかかります
ピアノ2/M	コーラス効果がやや深くかかります
ピアノ3/H	コーラス効果が深くかかります

2. コーラス効果をオフにするときは、[コーラス]スイッチを押します。

[コーラス]スイッチのランプが消灯します。

3. ペダルを使う

ダンパー、ソステヌート、ソフトの3種類のペダルがあります。これらを使って、演奏をより効果的に表現することができます。



ダンパー・ペダル

ペダルを踏んでいる間は音が長く伸び、余韻のある豊かな響きになります。ペダルを踏み込む深さでダンパーのかかり具合を変化させることができます（ハーフ・ペダル機能）。

ソステヌート・ペダル

ペダルを踏んだときに押えられていた鍵盤の音だけにダンパー効果がかかり、踏んでいる間はその音だけが長く伸びます。ペダルを踏んでいる間に、弾いた音に対してはダンパー効果はかかりません。

ソフト・ペダル

ペダルを踏んでいる間は、音が柔らかくおとなしい感じになります。ペダルを踏み込む深さで、音のやさらかさを変化させることができます（ハーフ・ペダル機能）。

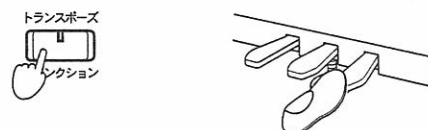
レイヤー、スプリット機能時のペダルの設定

レイヤー、スプリット機能時に、ダンパー・ペダル効果をつける音色を選ぶことができます。

MeMO この設定は、音色の組み合わせごとに記憶されます。

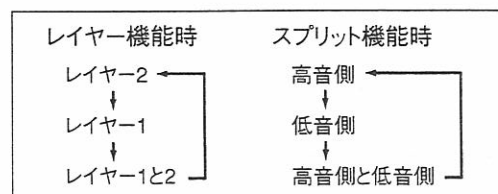
レイヤー機能時、スプリット機能（低音側に音色を選択）時

1. [トランスポーズ/ファンクション]スイッチを押しながら、ダンパー・ペダルを踏みます。



ダンパー・ペダルを踏むたびに、下のよう効果をつける音色が替わります。

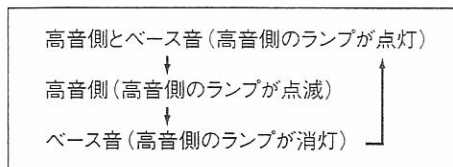
このとき、選択した音色の[音色セクター]スイッチのランプが点灯し、どの音色にダンパー・ペダルの効果をつけるのかを知らせます。



- 2 設定が終わったら、[トランスポーズ/ファンクション]スイッチから手を離してください。

スプリット機能 (低音側がベース音) 時

1. [トランスポーズ/ファンクション] スイッチを押しながら、ダンパー・ペダルを踏みます。
ダンパー・ペダルを踏むたびに、下のように効果をかける音色が替わります。
このとき、高音側に選択した音色の[音色セレクトター]スイッチのランプの点灯方法が変化し、ダンパーペダルの効果をかける音色を知らせます。



2. 設定が終わったら、[トランスポーズ/ファンクション] スイッチを離してください。

4. メトロノームに合わせて演奏する

テンポに合わせて演奏するときは、メトロノームを使うと便利です。このメトロノームは、演奏を録音するときの拍子やテンポの基準にもなります。

メトロノームを鳴らすときは

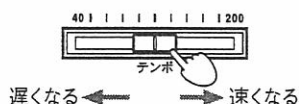
1. [メトロノーム] スイッチを押すと、メトロノームがスタートします。
[メトロノーム] スイッチのランプが点灯します。



2. メトロノームをストップするときは、もう一度[メトロノーム] スイッチを押します。

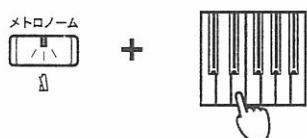
テンポを設定するときは

1. [メトロノーム] スイッチを押して、メトロノームをスタートさせます。
[メトロノーム] スイッチのランプが点灯します。
2. [テンポ] スライダーを動かして、テンポを調節してください。
設定できる範囲は、♩ = 40 ~ 200 です。



 [テンポ] スライダーの目盛りと実際のテンポが一致しないことがあります。

テンポを正確に設定するときは、[メトロノーム] スイッチを押しながら、テンポの値に対応した鍵盤を1つ押します (p.6)。



拍子を設定するときは

1. [メトロノーム] スイッチを押して、メトロノームをスタートさせます。
[メトロノーム] スイッチのランプが点灯します。
2. [メトロノーム] スイッチを押しながら、[音色セレクトター] スイッチを押します。
拍子選ばれ、押した[音色セレクトター]スイッチのランプが点灯します。拍子の1拍目が強拍になります。



- 弱拍だけにするときは、[音色セレクトター] スイッチの[ピアノ1/L]を押します。
[音色セレクトター] スイッチのランプが点灯します。

MeMO 電源をオンにした直後は、自動的に“4/4拍子”で“弱拍のみ”に設定されます。

メトロノームの音量を調節するときは

MeMO この設定は、電源をオフにしても記憶されます。

1. [メトロノーム] スイッチを押して、メトロノームをスタートさせます。
[メトロノーム] スイッチのランプが点灯します。
2. [メトロノーム] スイッチを押しながら[パート2] スイッチを繰り返し押すと、音量が大きくなります。また、[メトロノーム] スイッチを押しながら[パート1] スイッチを繰り返し押すと、音量が小さくなります。



3. もとの音量に戻すときは、[メトロノーム] スイッチを押しながら[パート1] スイッチと[パート2] スイッチを同時に押します。

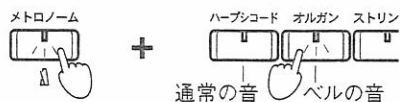
強拍をベルの音にするときは

MeMO この設定は、電源をオフにしても記憶されます。

1. [メトロノーム] スイッチを押して、メトロノームをスタートさせます。
[メトロノーム] スイッチのランプが点灯します。

2. [メトロノーム]スイッチを押しながら[音色セクター]スイッチの“オルガン”を押します。

“オルガン”のランプが点灯して、強拍がベルの音になります。



3. 強拍を通常の音に戻すときは、[メトロノーム]スイッチを押しながら[音色セクター]スイッチの“ハーブシコード”を押します。

“ハーブシコード”のランプが点灯します。

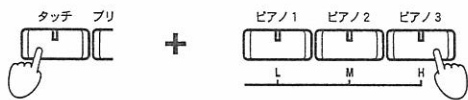
5. 鍵盤のタッチ感を変える

鍵盤を弾く強さによる音の強弱の変化の度合いを設定します。これをタッチ・コントロール機能といいます。

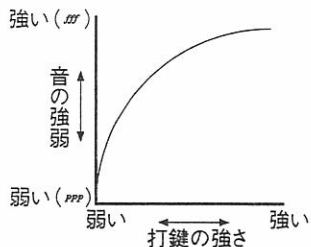
MeMO 電源をオンにした直後は、「通常のピアノタッチ」が選ばれます。

1. [タッチ]スイッチを押しながら[音色セクター]スイッチの“ピアノ1/L”、“ピアノ2/M”、“ピアノ3/H”のうち、1つを押してタッチ感を選びます。

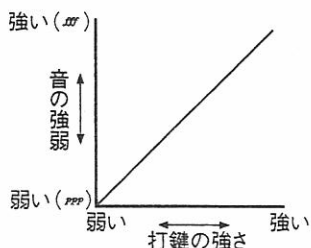
“ピアノ1/L”または“ピアノ3/H”を選んだときは、[タッチ]スイッチのランプが点灯します。



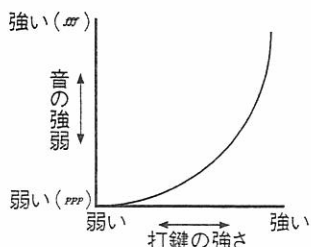
ピアノ1/L: 弱く弾いても強音が出せるタッチです(軽いタッチ)。



ピアノ2/M: 通常のピアノタッチです。



ピアノ3/H: 強く弾かないと強音が出せないタッチです(重いタッチ)。



6. キーを変更する(移調)

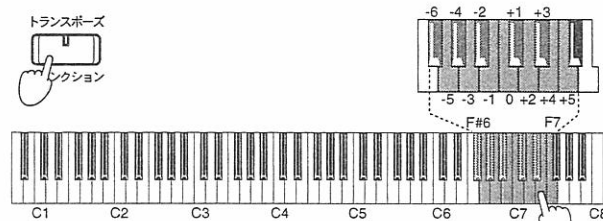
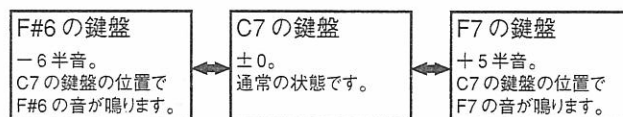
キーを変える(移調することによって、黒鍵をあまり使わない指使いで演奏したり、覚えたそのままの指使いで他の楽器や歌に演奏を合わせることができます。これをトランスポーズ機能といいます。

11半音の範囲で設定することができます。

1. [トランスポーズ/ファンクション]スイッチを押しながら、F#6~F7から1つの鍵盤を押します。

C7以外の鍵を押えると[トランスポーズ/ファンクション]スイッチのランプが点灯し、トランスポーズされたことを示します。

押さえた鍵の音の高さがC7鍵の位置に対応するように、鍵盤全体の音の高さが移調します。



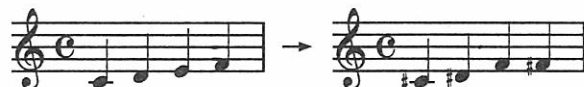
2. もとの設定に戻すときは、[トランスポーズ/ファンクション]スイッチを押しながら、C7鍵を押します。

この設定は、電源をオフにすると解除されます。

曲の調子を半音上げて演奏するときは

Cの鍵を押さえたときにC#の音が鳴るようにします。

- [トランスポーズ/ファンクション]スイッチを押しながらC#7の鍵盤を押します。
半音上げたときに左の楽譜を弾くと、右の楽譜のように鳴ります。



キーがB♭の曲をGの指使いに直して演奏するときは

B♭の音は、Gの音から見て短3度の(3半音高い)音にあたります。したがって、C7の鍵盤を押したときにC7よりも3半音高いD#7の音が出るようにします。

- [トランスポーズ/ファンクション]スイッチを押しながらD#7の鍵盤を押します。

7. 音の高さを微調整する

ピッチ（音の高さ）の微調整を行ないます。

他の楽器と合奏をするときなどに、楽器間の微妙なピッチのずれを調整します。

±12.5Hz (427.5Hz～452.5Hz) までずらすことができます。

MeMO この設定は、電源をオフにしても記憶されます。

ピッチを上げるときは

- [タッチ] スイッチを押しながら [パート2] スイッチを押します。

一回押すたびに約0.5Hz ずつピッチが高くなります。



ピッチを下げるときは

- [タッチ] スイッチを押しながら [パート1] スイッチを押します。

一回押すたびに約0.5Hz ずつピッチが低くなります。



もとのピッチに戻すときは

- [タッチ] スイッチを押しながら、[パート1] と [パート2] スイッチを同時に押します。

もとのピッチ (A4=440Hz) に戻ります。



8. 音律を選ぶ

クラシック音楽には、古典的な調律法によって作曲された作品が数多く残っています。これらの曲の持つ本来の響きを再現するために、キルンベルガーとヴェルクマイスターという古典音律と、現在鍵盤楽器で広く用いられている平均律の3種類の音律が選択できます。

MeMO 電源をオンにした直後は、平均律が選択されます。

ヴェルクマイスター

ドイツ人のオルガニストで音楽理論家のアンドリアス・ヴェルクマイスターによる、ヴェルクマイスターIIIスケールです。これはバロック時代後期に比較的自由的な移調を目的として考案されたものです。

キルンベルガー

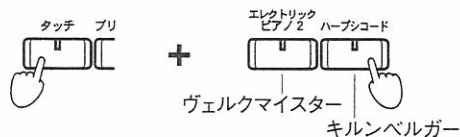
18世紀初めに、ヨハン・フィリップ・キルンベルガーが考案したキルンベルガーIIIスケールです。これは主にハーブスコードのチューニングに使用されます。

平均律

現在の鍵盤楽器のほとんどすべてがこの平均律を用いています。これは半音階が均等に配列しているため、どの調に対しても均一のスケールで演奏することができます。

音律を変更するときは

- [タッチ] スイッチを押しながら、[音色セレクト] スイッチの“エレクトリックピアノ2”または“ハーブスコード”を押します。



平均律に戻すときは

- [タッチ] スイッチを押しながら、ランプが点灯している [音色セレクト] スイッチを押します。
ランプは消灯します。

MeMO ピアノ1、ピアノ2、ピアノ3の音色では、ストレッチ・チューニングを用いています。ストレッチ・チューニングは、より自然な響きを得るために、平均律のピッチに対して低音域は低く、高音域は高くピッチを調整したものです。

2. 録音した曲を聴く

録音した曲を再生するときは

1. [パート1]、[パート2]スイッチのランプで、パートの録音状態を確認してください。
録音されているときは、ランプが緑の点灯になります。
再生しないパートは、そのスイッチを押して、ランプを緑の点滅にします。
2. [スタート/ストップ]スイッチを押すと、再生が始まります。
再生時は、[スタート/ストップ]スイッチのランプが拍子に合わせて点滅します。1拍目は赤色、その他の拍は緑色です。
[テンポ]スライダーなどで、再生するテンポを変えることができます(※p.14)。このとき、曲のテンポを変えてもピッチは変化しません。
3. 再生を終えるときは、[スタート/ストップ]スイッチを押します。
再生が終わり、自動的に最初の小節に戻ります。

MeMO 再生中に[一時停止]スイッチを押す([一時停止]スイッチのランプが点灯)と、演奏を一時停止することができます。
演奏を再開するときは、[スタート/ストップ]スイッチまたは[一時停止]スイッチを押します。

録音したデータをすべて再生し終えると、自動的に停止して、[スタート/ストップ]スイッチのランプが消灯します。

2つのパートの音量バランスを変えるときは

- パート1とパート2を同時に再生しているときに、[ブリリアンス]スイッチを押しながら、音量を大きくするパートのスイッチ([パート1]または[パート2]スイッチ)を押します。
もとに戻すときは、[ブリリアンス]スイッチを押しながら、[パート1]スイッチと[パート2]スイッチを同時に押してください。

演奏を繰り返して再生するときは

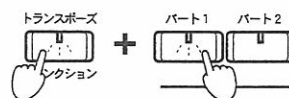
録音した曲全体を、繰り返して演奏させることができます。

- 演奏中に[トランスポーズ/ファンクション]スイッチを押します。
[トランスポーズ/ファンクション]スイッチのランプが点滅し、演奏を繰り返します。
演奏を停止するときは、[スタート/ストップ]スイッチを押します。このとき、演奏の繰り返しも解除されます。

3. 演奏データを消去します

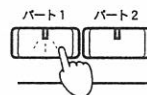
演奏データを消去するときは

1. 演奏の停止時に、[トランスポーズ/ファンクション]スイッチを押しながら、データを消したいパートのスイッチを押します。
[トランスポーズ/ファンクション]スイッチと、パートのスイッチのランプが点滅し、演奏データ消去の待機状態になります。



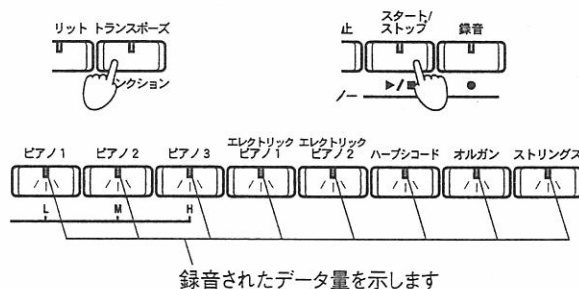
演奏データ消去の待機状態を解除するときは、ここで[トランスポーズ/ファンクション]スイッチを押します。

2. 1で押したパートのスイッチを再び押すと、演奏データが消去されます。




録音したデータ量を知りたいときは

- [トランスポーズ/ファンクション]スイッチと[スタート/ストップ]スイッチを同時に押し続けます。
録音した演奏のデータ量が、[音色セクター]スイッチのランプの点灯数で表示されます。データ量が大きくなると、ランプの点灯数が多くなります。



録音中に、録音可能な領域が、メモリーの10パーセント以下になると、[録音]スイッチのランプが点滅します。

10パーセント以下とは、録音できる音数が1,400未満になったとき、または録音した小節が900小節(最大999小節録音可)を越えたことをいいます。

 残しておきたい演奏データは、市販のデータファイラーを使って演奏データを保存、管理することをお勧めします。
(※p.20)

他の機器との接続

1. シンセサイザーやオーディオ機器との接続

本機にシンセサイザーやオーディオ機器を接続して、本体のスピーカーから音を出したり、演奏をテープレコーダーなどに録音することができます。

INPUT端子 (L/MONO, R)

シンセサイザーなど他の楽器やオーディオ機器のアウトプット端子と接続して、本機の内蔵スピーカーから音を出すための端子です。音量は接続した楽器やオーディオ機器のボリュームで調節してください。

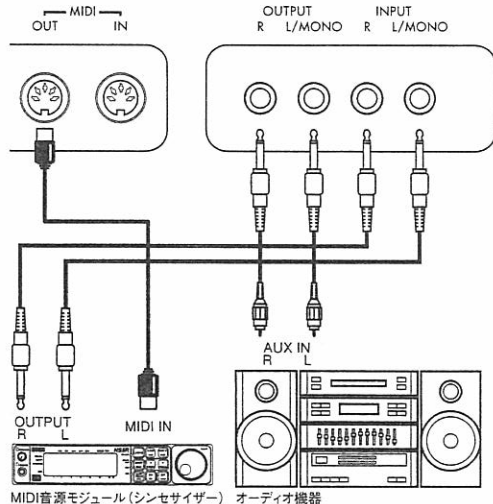
OUTPUT端子 (L/MONO, R)

オーディオ機器などのインプット端子と接続して、より大きな音を出したり、テープレコーダーなどに演奏を録音するときに使用する端子です。

アウトプット出力は、ヘッドホン端子にプラグが差し込まれているときとしないときとで、音色が若干変わります。

MIDI端子 (IN, OUT)

シンセサイザー、シーケンサー、リズムマシンなどのMIDI機器と接続して、情報を交換するための端子です。詳しくは、次の「2. MIDI機器との接続」を参照してください。



2. MIDI 機器との接続

MIDI (ミディ) とは?

MIDI (Musical Instrument Digital Interface) は、電子楽器やコンピュータの間で、演奏に関するさまざまな情報をやりとりするための世界共通の規格です。

本機を演奏することによって、他のMIDIを備えた楽器を鳴らすことができます。このとき、音色の切り替えやダンパー・ペダルなどの効果を、一緒にコントロールできます。

また、他のMIDIキーボードやシーケンサー (自動演奏装置) から本機をコントロールして、内蔵音源を鳴らすこともできます。複数のMIDI機器を組み合わせることによって、より多彩なアンサンブルを楽しむことができます。その他には、本機の

レコーダーのデータを保管するときに、MIDIを使って行います。ここでは、本機に関連したMIDIの使用方法について説明します。さらにMIDIに興味のある方は、わかりやすく説明した本も、数多く出版されていますので、ご利用ください。

MIDIの接続方法

MIDI情報をやりとりするには、専用のMIDIケーブルを使います。このケーブルを、本機のMIDI端子と情報をやりとりする外部MIDI機器のMIDI端子に接続します。このMIDI端子は2種類あります。

MIDI IN端子

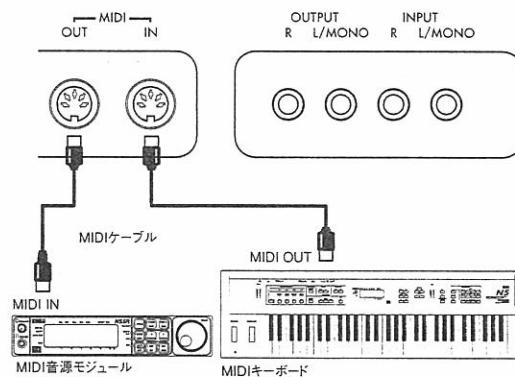
MIDI情報を受信します。

外部MIDI機器 (MIDIキーボードやシーケンサーなど) で、本機の音を鳴らすなどのコントロールができます。本機のMIDI IN端子と外部MIDI機器のMIDI OUT端子を、MIDIケーブルで接続します。

MIDI OUT端子

MIDI情報を送信します。

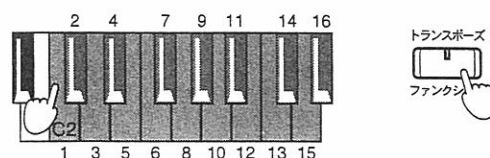
本機を弾いたときなどに出力されるMIDI情報で、外部MIDI機器をコントロールできます。本機のMIDI OUT端子と外部MIDI機器のMIDI IN端子を、MIDIケーブルで接続します。



MIDIチャンネル

接続が終わったら、本機と接続するMIDI機器のMIDIチャンネルを同じ番号に設定します。MIDIチャンネルには1～16があります。

- [トランスポーズ/ファンクション] スイッチを押しながら、設定するMIDIチャンネルに対応したC2～D#3の1つの鍵を押します。




この設定が、パート1のMIDIチャンネルになります。パート2は、ここで設定したMIDIチャンネルに+1したものになります。ただしMIDIチャンネルを16に設定したときは、パート2のMIDIチャンネルは1になります。

MeMO 電源をオンにした直後は、自動的にチャンネル1に設定されます。

本機をマルチティンバー音源として使うときは

本機は、内蔵音源を外部MIDI機器からコントロールして鳴らすことができる16パートマルチティンバー音源として動作します。

1. 本機のMIDI INとシーケンサーなどのMIDI OUTをMIDIケーブルで接続します。
2. 接続したシーケンサーなどからMIDIデータを送信します。
接続するシーケンサーなどからの送信方法はそれぞれの取扱説明書をご覧ください。
演奏データと一緒にプログラムチェンジメッセージを受信すると、そのプログラムナンバーに対応する本機の音色で演奏されます。ただし、該当するMIDIチャンネルのプログラムチェンジがイネーブルになっているときに限ります。また、プログラムチェンジやコントロールチェンジのキャンセルはMIDIチャンネル1～16それぞれ独自に設定できます。

 マルチティンバー音源として使用する場合、本機のパネル上で選択している音色を、設定しているMIDIチャンネルのデータで鳴らすことはできません。

ローカルオン・オフの設定

本機の鍵盤を弾いたときに内蔵音源は鳴らさないでMIDIで接続している外部の音源だけを鳴らす場合や、シーケンサーを接続してシーケンサー側でエコーバック（シーケンサーが受信したデータを送り返す動作）を設定したときに戻ってきた情報で二重に鳴るのを防ぐ場合に本機をローカルオフに設定します。通常はローカルオンに設定して鍵盤を弾いたときに本機の音が鳴るようにします。

- [トランスポーズ/ファンクション] スイッチを押しながら [音色セクター] スイッチの [ピアノ1/L] を押します。
押すたびにオン/オフが切り替わります。

ローカルオン	[ピアノ1/L] のランプ点灯
ローカルオフ	[ピアノ1/L] のランプ消灯

MeMO 電源をオンにした直後は、自動的にローカルオンに設定されています。

プログラムチェンジ

接続したMIDI機器のプログラム番号を、本機から切り替えたり、接続したMIDI機器から、本機のプログラム番号を切り替えます。

プログラムチェンジの送信

接続した外部MIDI機器のプログラム番号を、本機から切り替えます。

- [音色セクター] スイッチで音色を選ぶと、表のように0～99のMIDIプログラムチェンジナンバーを送信します。

プログラムチェンジの受信

外部からプログラムチェンジナンバーを受信すると、下の表のように、本機のマルチティンバーの音色が切り替わります。

MeMO 本機は、0～99のMIDIプログラムチェンジナンバーを受信したときに音色が切り替わります。外部MIDI機器より100以上のMIDIプログラムチェンジナンバーを受信しても本機の音色は切り替わりません。

シングル	PC#	音色
	00	ピアノ1
	01	ピアノ2
	02	ピアノ3
	03	エレクトリックピアノ1
	04	エレクトリックピアノ2
	05	ハーブシコード
	06	オルガン
	07	ストリングス
レイヤー	PC#	音色 (レイヤー1, レイヤー2)
	08	ピアノ1, ピアノ2
	09	ピアノ1, ピアノ3
	10	ピアノ1, エレクトリックピアノ1
	11	ピアノ1, エレクトリックピアノ2
	12	ピアノ1, ハーブシコード
	13	ピアノ1, オルガン
	14	ピアノ1, ストリングス
	15	ピアノ2, ピアノ3
	16	ピアノ2, エレクトリックピアノ1
	17	ピアノ2, エレクトリックピアノ2
	18	ピアノ2, ハーブシコード
	19	ピアノ2, オルガン
	20	ピアノ2, ストリングス
	21	ピアノ3, エレクトリックピアノ1
	22	ピアノ3, エレクトリックピアノ2
	23	ピアノ3, ハーブシコード
	24	ピアノ3, オルガン
	25	ピアノ3, ストリングス
	26	エレクトリックピアノ1, エレクトリックピアノ2
	27	エレクトリックピアノ1, ハーブシコード
	28	エレクトリックピアノ1, オルガン
	29	エレクトリックピアノ1, ストリングス
	30	エレクトリックピアノ2, ハーブシコード
	31	エレクトリックピアノ2, オルガン
	32	エレクトリックピアノ2, ストリングス
	33	ハーブシコード, オルガン
	34	ハーブシコード, ストリングス
	35	オルガン, ストリングス
スプリット	PC#	音色 (低音側, 高音側)
	36	ピアノ1, ピアノ2
	37	ピアノ1, ピアノ3
	38	ピアノ1, エレクトリックピアノ1
	39	ピアノ1, エレクトリックピアノ2
	40	ピアノ1, ハーブシコード
	41	ピアノ1, オルガン
	42	ピアノ1, ストリングス
	43	ピアノ2, ピアノ1
	44	ピアノ2, ピアノ3

スプリット	PC#	音色 (低音側, 高音側)
	45	ピアノ2, エレクトリックピアノ1
	46	ピアノ2, エレクトリックピアノ2
	47	ピアノ2, ハープシコード
	48	ピアノ2, オルガン
	49	ピアノ2, スtringス
	50	ピアノ3, ピアノ1
	51	ピアノ3, ピアノ2
	52	ピアノ3, エレクトリックピアノ1
	53	ピアノ3, エレクトリックピアノ2
	54	ピアノ3, ハープシコード
	55	ピアノ3, オルガン
	56	ピアノ3, Stringス
	57	エレクトリックピアノ1, ピアノ1
	58	エレクトリックピアノ1, ピアノ2
	59	エレクトリックピアノ1, ピアノ3
	60	エレクトリックピアノ1, エレクトリックピアノ2
	61	エレクトリックピアノ1, ハープシコード
	62	エレクトリックピアノ1, オルガン
	63	エレクトリックピアノ1, Stringス
	64	エレクトリックピアノ2, ピアノ1
	65	エレクトリックピアノ2, ピアノ2
	66	エレクトリックピアノ2, ピアノ3
	67	エレクトリックピアノ2, エレクトリックピアノ1
	68	エレクトリックピアノ2, ハープシコード
	69	エレクトリックピアノ2, オルガン
	70	エレクトリックピアノ2, Stringス
	71	ハープシコード, ピアノ1
	72	ハープシコード, ピアノ2
	73	ハープシコード, ピアノ3
	74	ハープシコード, エレクトリックピアノ1
	75	ハープシコード, エレクトリックピアノ2
	76	ハープシコード, オルガン
	77	ハープシコード, Stringス
	78	オルガン, ピアノ1
	79	オルガン, ピアノ2
	80	オルガン, ピアノ3
	81	オルガン, エレクトリックピアノ1
	82	オルガン, エレクトリックピアノ2
	83	オルガン, ハープシコード
	84	オルガン, Stringス
	85	Stringス, ピアノ1
	86	Stringス, ピアノ2
	87	Stringス, ピアノ3
	88	Stringス, エレクトリックピアノ1
	89	Stringス, エレクトリックピアノ2
	90	Stringス, ハープシコード
	91	Stringス, オルガン
	92	ベース, ピアノ1
	93	ベース, ピアノ2
	94	ベース, ピアノ3
	95	ベース, エレクトリックピアノ1
	96	ベース, エレクトリックピアノ2
	97	ベース, ハープシコード
	98	ベース, オルガン
	99	ベース, Stringス

プログラムチェンジキャンセル

プログラムチェンジの情報を送受信しないときはプログラムチェンジをキャンセルに、送受信するときはイネーブルにします。

- [トランスポート/ファンクション] スイッチを押しながら [音色セクター] スイッチの [ピアノ2/M] を押します。押すたびにキャンセル・イネーブルが切り替わります。

イネーブル	[ピアノ2/M] のランプ点灯
キャンセル	[ピアノ2/M] のランプ消灯

プログラムチェンジキャンセルは、MIDIチャンネル1～16それぞれ独自に設定ができます。例えば、MIDIチャンネルを1chにしてプログラムチェンジキャンセルを設定し、その後MIDIチャンネルを2chに替えた場合でも、1chのプログラムチェンジキャンセルの設定は記憶されています。

MeMO 電源をオンにした直後は、全MIDIチャンネルが自動的にイネーブルに設定されます。

コントロールチェンジ

本機のダンパーペダルなどの情報を接続した外部MIDI機器に送信してコントロールしたり、外部MIDI機器からこれらの情報を受信して本機をコントロールします。これを送受信するときはコントロールチェンジをイネーブルに、しないときはコントロールチェンジをキャンセルに設定します。

- [トランスポート/ファンクション] スイッチを押しながら [音色セクター] スイッチの [ピアノ3/H] を押します。押すたびにキャンセル・イネーブルが切り替わります。

イネーブル	[ピアノ3/H] のランプ点灯
キャンセル	[ピアノ3/H] のランプ消灯

コントロールチェンジキャンセルは、MIDIチャンネル1～16それぞれ独自に設定ができます。例えば、MIDIチャンネルを1chにしてコントロールチェンジキャンセルを設定し、その後MIDIチャンネルを2chに替えた場合でも、1chのコントロールチェンジキャンセルの設定は記憶されています。



外部からのコントロールチェンジは、本機のペダルの設定の変更 (p.13「レイヤー、スプリット機能時のペダルの設定」参照) に関係なく、レイヤー、スプリット機能でも、つねに両方の音色に対して有効となります。

MeMO 電源をオンにした直後は、全MIDIチャンネルが自動的にイネーブルに設定されます。

外部シーケンサーを同期させる


本機のレコーダーに合わせてMIDIで接続した外部シーケンサーやリズムマシンなどを同時に演奏(同期)させることができます。

本機は、マスター機(コントロールする機器)として働きますので、接続したシーケンサーなどはスレーブ機(コントロールされる機器)となります。

1. 本機のMIDI OUTとシーケンサーなどのMIDI INをMIDIケーブルで接続します。
2. 接続したシーケンサーなどをスレーブ機として設定します。
接続するMIDI機器のMIDIクロックなどの設定はそれぞれの取扱説明書をご覧ください。
3. 本機の[スタート/ストップ]スイッチを押して同期演奏をさせます。
本機から出力されるMIDIクロック(テンポを合わせるための信号)は、本機で設定したテンポ値に従います。


レコーダーのデータを保存するには (データダンプ)

本機のレコーダーに録音した演奏データを、外部のMIDIデータファイラー(記憶装置)に保存し、必要なときに本機レコーダーに読み込み再生することができます。

 データファイラーの取扱説明書をよくお読みになり、データを消してしまわないように十分注意してください。


演奏データをデータファイラーに保存します

1. 本機のMIDI OUTとデータファイラーのMIDI INをMIDIケーブルで接続します。
2. データファイラーを操作して本機からのMIDIデータを受信待ちの状態に設定します。
3. 本機の[トランスポート/ファンクション]スイッチを押しながら[音色セレクト]スイッチの“エレクトリックピアノ1”を押します。
[トランスポート/ファンクション]スイッチと“エレクトリックピアノ1”のランプが点滅し、データダンプ送信待ちの状態になります。
4. [スタート/ストップ]スイッチを押します。
データダンプが始まり、演奏データがデータファイラーに送信されます。送信している間、[スタート/ストップ]スイッチのランプが点滅します。
送信が終了すると、[スタート/ストップ]スイッチのランプが消灯し、通常の演奏できる状態に戻ります。

 データダンプ送信待ちの状態やデータファイラーに演奏データを送信している間は本機から音は出ません。データの送信が終了、データファイラーにデータが記録されると通常の演奏できる状態に戻ります。

演奏データをデータファイラーから本機のレコーダーに戻します

1. 本機のMIDI INとデータファイラーのMIDI OUTをMIDIケーブルで接続します。
2. 本機の[トランスポート/ファンクション]スイッチを押しながら、[音色セレクト]スイッチの“エレクトリックピアノ1”を押します。
[トランスポート/ファンクション]スイッチと“エレクトリックピアノ1”のランプが点滅し、データダンプ受信待ちの状態になります。
3. データファイラーを操作して、あらかじめ保存しておいた本機の演奏データを送信します。データの送信については、データファイラーの取扱説明書をご覧ください。
本機が演奏データを受信します。受信中には[録音]スイッチのランプが点滅します。
演奏データの受信が終了すると、[録音]スイッチのランプが消灯し、データダンプ受信待ちの前の状態に戻ります。

 データファイラーから演奏データを受信している間は、本機から音は出ません。データの受信が終了、演奏データが本機のレコーダー内に元どおりに正しく納められると、通常の演奏できる状態に戻ります。

故障とお思いになる前に

電源が入らない

- 電源コードを本体に差し込んでいますか？
- 電源コードを適切なコンセントに差し込んでいますか？
- 電源スイッチがオンになっていますか？ (☞p.7)
- それでも電源が入らない場合は、電源コードをコンセントから抜いて、最寄りのコルグ製品販売店にご相談ください。

音が出ない

- 本機の[ボリューム]スライダーが“0”になっていませんか？ (☞p.7)
- ヘッドホン端子にプラグが差し込まれていませんか？
- 選んでいるパートが再生されるように設定していますか？ (☞p.18)
- 選んでいるパートに、演奏データは録音されていますか？ (☞p.18)
- ローカルオンになっていることを確認してください。 (☞p.20)

音が途切れてしまう

- 最大同時発音数を越えています。
前に鳴っている音を消して、後で押さえた音を優先的にならす仕組みになっているため、最大同時発音数を越えると音が切れてしまいます。
ピアノ1、ピアノ2以外の音色は、最大同時発音数が64音です。ピアノ1、ピアノ2は2つのデータを使用しているため、最大同時発音数が32音になります。
ダンパーペダルを使用するとき、レイヤーにして2つの音色を鳴らすとき、複数音色を使用して録音したデータを再生するときなどは、最大同時発音数を考えて音色を上手に選んでください。

特定の音域でピアノ音色の音程、音質がおかしい

- 本機のピアノ音色では、ピアノ本体の音をできる限り忠実に再現しようと加工してつくられています。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音程や音域が異質に感じる場合がありますが、製品の不良ではありません。

ペダルの効果が正しくかからない

- ペダル用コネクターがはずれていませんか？ (☞p.26)

録音できない

- レコーダーの空き領域は十分にありますか？ (☞p.18)

送信したMIDIデータに外部機器が応答しない

- MIDIケーブルやPC専用接続ケーブルが、すべて正しく接続されていることを確認してください。 (☞p.19)
- 受信機器と同じチャンネルで、本機がMIDIデータを送信していることを確認してください。 (☞p.19)

仕 様

鍵盤	88鍵(A0～C8)、リアル・ウェイトド・ハンマー・アクション鍵盤
音色	9音色: ピアノ1、ピアノ2、ピアノ3、エレクトリックピアノ1、エレクトリックピアノ2、ハーブシコード、オルガン、ストリングス、ベース(スプリット時)
音源システム	HIシンセシス・システム(アクティブ・ステレオ・サンプリング)
最大同時発音数	64音
効果	リバーブ(3段階)、コーラス(3段階)、ブリリアンス(3段階)
レコーダー	2パート、最大14,000ノート テンポ、メトロノーム、録音、スタート/ストップ、一時停止
キーボード・モード	シングル、レイヤー、スプリット
音律	3
タッチ・コントロール	3段階(ライト/スタンダード/ヘビー)
コントロール	[POWER]スイッチ、[ボリューム]スライダー、[スプリット]スイッチ、[トランスポーズ/ファンクション]スイッチ、[タッチ]スイッチ、[ブリリアンス]スイッチ、[リバーブ]スイッチ、[コーラス]スイッチ、[音色セクター]スイッチ、[テンポ]スライダー、[メトロノーム]スイッチ、[デモ]スイッチ
ペダル	ダンパー*、ソフト*、ソステヌート(*印: ハーフ・ペダル対応)
接続端子	ヘッドホン×2、INPUT(L/MONO、R)、OUTPUT(L/MONO、R)、MIDI(IN、OUT)
メイン・アンプ	20W×2
スピーカー	12cm×2、5cm×2
電源	AC100V 50Hz/60Hz
消費電力	45W
外形寸法	1,386.0(W)×458.0(D)×893.4(H)mm
重量(スタンド含)	43.0 kg
付属品	専用スタンド、電源コード、ヘッドホン、高低自在椅子

※ 仕様および外装は改良のため予告なく変更することがあります。

- ・ MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- ・ Sound Processed with INFINITY™

スタンド (STD-3000) の組み立て方法



警告



● 必ず2人以上で組み立ててください。

組み立て時の注意

正しく組み立てるときは、以下の項目に注意して作業を行ってください。

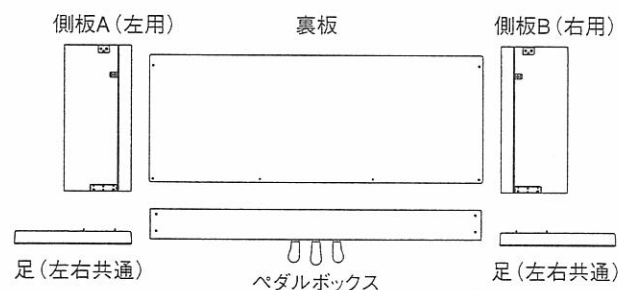
- ・ 部品の種類や向きを間違わないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- ・ デジタル・ピアノの本体をスタンドに固定する前に、本体前側に力を掛けすぎると、本体が落下することがありますので、十分に注意してください。

組み立て方法

お手持ちのプラスドライバーを用意してください。

1. 箱を開けて部品を取り出します。

下記の部品が揃っていることを確認してください。



ビニール袋詰め

ネジa (M6 x 60)
...4本 (白)



コードホルダー...2本



ネジb (M6 x 20)
...4本 (白)



キャップ...4個
○○○○

本体固定ネジ...2本



ネジc (M4 x 14)
...6本 (黒)

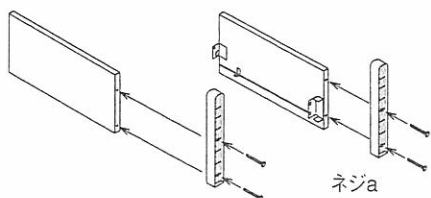


アジャスター...1個

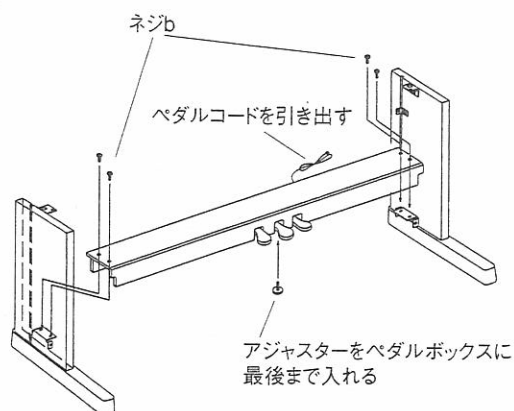


2. ネジaで、側板AとBに足を取り付けます。

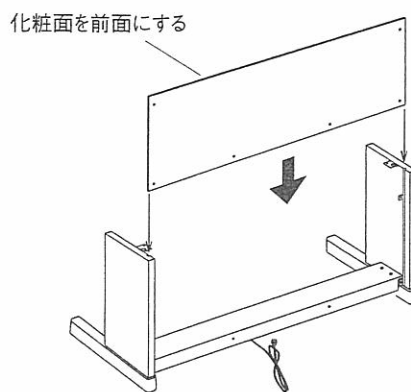
足の2つの突起部分を、側板の穴にそれぞれ合わせてください。



3. ネジbで、2で組んだ側板をペダルボックスに仮止めします。



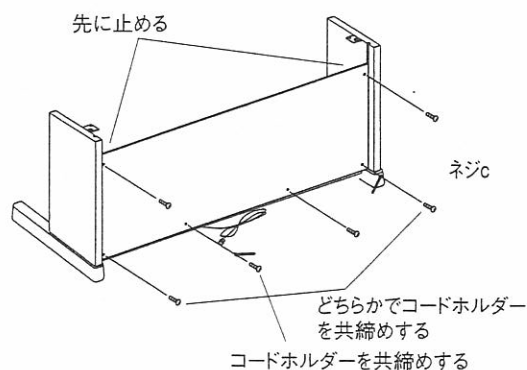
4. 側板の溝に裏板をはめ込みます。



5. ネジcで、裏板を取り付けます。

先に裏板の上側(2ヶ所)を止めます。

下側を止めるときは、2ヶ所でネジcにコードホルダーを通し、スタンドに共締めします。右側または左側に共締めするかは、コンセントの位置を考えて決めてください。



6. スタンドに隙間やかたむきがないことを確認し、すべてのネジをしっかりと固定してください。

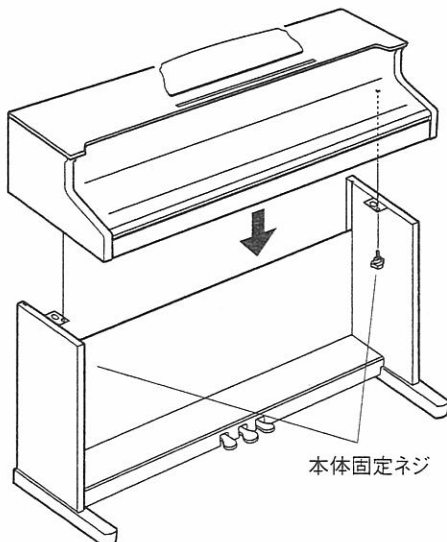
ネジbのネジ頭にキャップをかぶせます。

7. 本体を取り付けます。

本体底面にあるプラスチック製の足を、側板の金具の穴に入るようにのせ、**本体固定ネジ**で、下方から固定します。



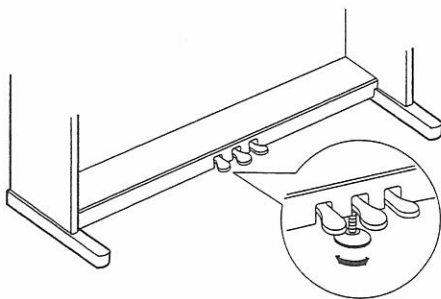
本体をスタンドにのせるときは、手を挟まないように、また下に落とさないように、ゆっくり行ってください。



8. アジャスターを緩めて、アジャスターが床にしっかり当たるように調節します。



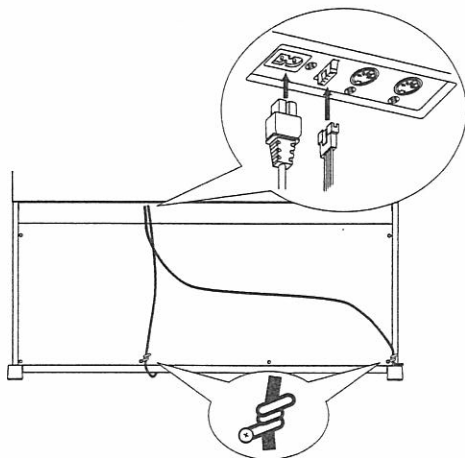
アジャスターが床にしっかり当たらないと、ペダルがぐらつき故障の原因になります。



9. ペダルコードと電源コードを本体の底面に接続し、各コードをコードホルダーで固定します。



ペダルコードの接続時は、コネクターの向きに注意してください。



組立後のチェック

- 部品は余っていませんか?
余ったときは、図中の使用先の位置を確認してください。
- 各ネジが緩んでいないかを確認してください。

その他の注意

組み立てた後は、以下の項目に注意してください。

- ・ **ネジの緩みについて**
組み立て後、時間が経過すると、各部のネジが緩むことがありますので、ネジが緩んでいないかを定期的に確認することをおすすめします。また、スタンドの揺れが激しいと感じる場合、ネジが緩んでいる可能性があります。そのときはネジを締め直してください。
- ・ **移動について**
デジタル・ピアノ本体をスタンドから取り外し、本体とスタンドを別々に移動してください。移動後は「取扱説明書」に従い、組み立て直してください。
- ・ **分解について**
スタンドを分解するときは、組立時の逆の順番で行ってください。分解後、ネジなどの部品をなくさないように、保管してください。

ファンクション...		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル:	電源ON時 設定可能	1 1-16	1 1-16	
モード:	電源ON時 メッセージ 代用	×	3 ×	

ノート ナンバー:	音域	15-113 *****	0-127 21-108	
ベロシティ:	ノート・オン ノート・オフ	○9n, V=1-127 ×	○9n, V=1-127 ×	
アフタータッチ:	キー別 チャンネル別	×	×	
		×	×	
ピッチ・ベンダー:		×	×	
	7	×	○	ボリューム *1
	11	×	○	エクスプレッション *1
コントロール チェンジ:	64	○	○	ダンパー・ペダル *3, *1
	66	○	○	ソステヌート・ペダル *1
	67	○	○	ソフト・ペダル *3, *1
	91, 93	×	○	リバーブ・センド、コーラス・センド *1
	120, 121	×	○	オールサウンド・オフ、リセット・オールコントロール
	7, 11, 91, 93	○	○	シーケンス・データ
プログラム チェンジ:	設定可能範囲	0-99 *****	0-99 0-99	*2
エクスクルーシブ:		○	○	デバイス・イングワイアリ シーケンス・データ・ダンプ
コモン:	ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	×	×	
		×	×	
		×	×	
リアルタイム:	クロック コマンド	○ ○	×	
		○	×	
その他:	ローカル・オン/オフ オール・ノート・オフ アクティブセンシング リセット	×	○	
		×	○123-127	
		○	○	
		×	×	
備考:				
*1 コントロールチェンジがイネーブルに設定されているとき、送受信する				
*2 プログラムチェンジがイネーブルに設定されているとき、送受信する				
*3 ハーフダンパー出力値 (0、38、74、127)				

モード1: オムニオン、ポリ モード2: オムニオン、モノ
モード3: オムニオフ、ポリ モード4: オムニオフ、モノ

○: あり
×: なし

アフターサービス

■保証書

本製品には、保証書が添付されています。
お買い求めの際に、販売店が所定事項を記入いたしますので、「お買い上げ日」、「販売店」等の記入をご確認ください。記入がないものは無効となります。
なお、保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

■保証期間

お買い上げいただいた日より一年間です。

■保証期間中の修理

保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。
本製品と共に保証書を必ずご持参の上、修理を依頼してください。

■保証期間経過後の修理

修理することによって性能が維持できる場合は、お客様の要望により、有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品（電子回路などのように機能維持のために必要な部品）の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。また、外装部品（パネルなど）の修理、交換は、類

似の代替品を使用することもありますので、あらかじめお買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、または営業技術課へお問い合わせください。

■修理を依頼される前に

故障かな?とお思いになったら、まず取扱説明書をよくお読みのうえ、もう一度ご確認ください。
それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、または営業技術課へお問い合わせください。

■修理時のお願い

修理に出す際は、輸送時の損傷等を防ぐため、ご購入されたときの箱と梱包材をご使用ください。

■ご質問、ご相談について

アフターサービスについてのご質問、ご相談は、お買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、または営業技術課へお問い合わせください。
商品のお取り扱いに関するご質問、ご相談は、インフォメーションへお問い合わせください。

▼▲▼▲▼▲▼ 株式会社コルグ ▼▲▼▲▼▲▼

インフォメーション	〒168-0073 東京都杉並区下高井戸1-11-17	TEL03 (5376) 5022
営業技術課	〒143-0001 東京都大田区東海5-4-1 明正大井5号営業所 コルグ物流センター内	TEL03 (3799) 9085
名古屋営業所	〒466-0825 名古屋市昭和区八事本町100-51	TEL052 (832) 1419
大阪営業所	〒531-0072 大阪市北区豊崎3-2-1 淀川5番館7F	TEL06 (6374) 0691
福岡営業所	〒810-0012 福岡市中央区白金1-3-25 第2池田ビル1F	TEL092 (531) 0166

WARNING!

This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

(この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です)